

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回川島町総合教育会議	
開 催 日 時	平成28年5月27日（金）午後3時から	
開 催 場 所	川島町役場 第1委員会室	
議 題	(1) 統合小学校の校名について (2) 学校統合による廃校の利活用について (3) その他（報告） ①平成28年度川島町教育重点施策について	
公開・非公開の別	公 開 ・ 非公開 ・ 一部非公開	
非公開の理由 (非公開の場合のみ)		
出席者	構成員	飯島和夫町長・若林昌善副町長・中村正宏教育長・ 深谷邦彦教育長職務代理・大野美寿代教育委員・ 菊池建太教育委員・福島彰教育委員
	事務局職員	石島一久課長・石川和貴主幹・菊地和幸主任（以上政策推進課）、粕谷克己副教育長兼教育総務課長・坪内嘉夫室長・山崎清主幹・向後正隆指導主事（以上教育総務課）、関吉治課長（以上生涯学習課）
配布資料	会議次第 資料1・2	
審議会等の内容・概要		
<p>1 開 会</p> <p>（司会より会議の開催にあたり、川島町審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、会議は原則公開であることを説明する。会議録については、発言委員名を記載して公開する旨で構成員より了承を得る。）</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>町 長：本日の会議の議事については、個人情報 を 特 に 取 扱 っ て い な い の で 公 開 と し、会議録の作成は、発言者の名前は記載し、要点をまとめて記録する。最後に、会議録の署名は、福島委員を指名したい。</p>		

教育委員：異議なし

(1) 統合小学校の校名について

(事務局にて、資料1-1、資料1-2を用いて説明)

町長：統合小学校の校名案を募集した後、どこで、どのように選定していくのか詳細な流れを確認したい。

副教育長：(仮称)三保谷・出丸小学校と(仮称)八ツ保・小見野小学校は、川島中学校と連携、交流を図り、小中一貫教育を進めることとしている。このようなことから、2校の校名は統一感のあるものとし、統合協議会にて協議を行ったうえで、10組程度を選定する。

さらに教育委員会にて審議を行い、5組程度を選定し、総合教育会議を経て、町長に校名を決定していただきたいと考えている。

深谷委員：校歌のイメージとしては、歌詞は別としても、メロディーは一つがよいと考えている。また、今後の統合校の運用面や、小中一貫教育を見据えた統一感がある名称がよい。

大野委員：小中一貫教育を推進する計画があるので、2校は統一的な名称がいいのではないかと考えている。また、名前のイメージとしては、教育大綱でも記載があるが、みどり(自然)を含めたやさしいイメージの校名がよい。

菊池委員：4つの地域があるわけだが、統合的なイメージが出てくるほうがよいと思うので、地域の名称でないほうがよい。今後の小中一貫教育を見据えた統一感ある名称を応募基準に取り入れているので、それを意識した統一的な校名のイメージが出てくればと思う。

福島委員：現在の校名は、地域ごとの名称であり、地域性の強いイメージとなっている。そのため、「おらが学校」の意識が強くなっている。しかし、学校統合や、小中一貫校としての将来を見据えると、地域にこだわらず、4地域に共通した統合的な名称がいいと思う。例えば、4地区から連想して四葉のクローバーをイメージしたような校名が考えられないか。いずれにしろ統合的な名称をきっかけに地域住民が共通意識をもてるようになるとよい。そのためには、意識改革も必要だと思う。

教育長：新しい夢のある学校をつくるために、オール川島で取り組みたい。そのようなことから、今回の公募はとても大事な作業であると考えている。そのため、統合協議会や総合教育会議にて吟味しながら、よかったと思える校名になるとよいと考えて

いる。

町長：旧6か村があり、それぞれの生活圏が1つになって今の町が出来ている。このため、昔からの地域意識が今でも残り、同じ町内でも対抗意識が出る傾向がある。しかし、今回の統合をきっかけに、地域によらず、みんな同じ町民だという意識になってほしい。そのような意味で、統一感のある名称がよいと思う。

(2) 学校統合による廃校の利活用について

(事務局にて、資料2を用いて説明)

町長：跡地の利活用は、住民も含め検討できればと考えている。また、売却も選択肢に含めて検討してもよいのではないかとと思う。

教育長：跡地の利活用については、いろいろな方が集まって意見を聞くなど時間をかけての検討が必要になってくる。人が集まる条件、にぎやかになる条件とは何かを検討することも必要である。これは、町おこしの分野であり、町全体で本気になって、「廃校を活用することがチャンス」と思って検討することが必要である。

町長：行政バスをフル活用して、住民の人もいろいろな成功例を見ていただき、イメージを持ってもらうよう考えることも必要である。

深谷委員：跡地活用してよかったと思う人が半数以上いなければならない。そのためにも、今までの公民館機能から、さらに多機能とした総合施設や、お年を召した方が集まるサロン、観光資源としての活用や防災など、様々な検討が必要だと思う。

大野委員：川島町は宿泊施設がない。川島町に多くある自然、例えば三叉沼ビオトープを利用した自然学習やキャンプなど様々な体験学習が行えるような宿泊施設を検討することも必要と思う。

菊池委員：二つの学校とも、川島町の財産だと思う。小見野小の場合は、木質化された校舎である。また、出丸小の場合は、三叉沼ビオトープに、外部の団体等が結構来ている。体験型の教育や、防災教育などに活用するなど、いろいろな考えができると思う。それらを活用した様々なアイデアを検討できればと思う。

福島委員：新たな総合振興計画後期計画でも、地域の活性化に繋がる施設となっている。そういった意味では、廃校という悪いイメージではなく、いいチャンスとして捉えてほしいと考える。川島町内にもインターはあるが、出丸小学校の近くに桶川・北本インターもある。川島町だけの面だけの検討ではなく、近隣市町村の状況や地理を含めた、様々な見地から検討する必要があると思う。

また、全町的な地域の活性化のため、意識改革が必要だと思う。近くに県防災施設もあるので防災訓練施設や、公民館が老朽化しているので公民館としての活用など、今まで財政的な投資を行ってきた校舎を、うまく活用できたらと思う。

町長：今、短い時間の中だけでも、多くの意見が出てきた。この機会をチャンスだと思って、地域住民のみなさんの声を丁寧に聞きながら、検討していけたらと思う。

副教育長：廃校の利用については、統合協議会にて2ヵ年をかけて施設の活用について具体的な施策を検討し、提言として報告する方向でよいか。

町長：その方向でよろしくお願ひしたい。

(3) その他 (報告)


①平成28年度川島町教育重点施策について

(事務局にて、資料3を用いて説明)

町長：学習については、様々なバランスを考えて実施したほうがよいと思うが、学力については少しでも向上したほうがよいと思う。教育委員の皆様におかれましても、川島町の子供たちの為に、学力向上に御協力お願ひしたい。

深谷委員：今後、小中一貫教育として考えているならば、最初のアクションとして、この時期から、具体的な財政シミュレーションや、基金の創設など、必要な処置を検討していった方がよい。教育委員も含め、町長部局においても検討をお願いします。

4 閉 会

署 名	福島 彰 
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------